―諸人のここに学びて―　　校長室から見える風景（6）

教育実習という経験

　5名の教育実習生が13日に3週間の実習を終えました。大変おつかれさまでした。たった3週間、しかし、実習生のみなさんにとってはとても濃い時間となったのではないでしょうか。

　初日の校長講話でこんなことを話しました。

「豊岡高校へ　お帰りなさい、そしてようこそ　」

「きっと大きな経験の一つになる」

「まずは授業で勝負する」

「視点の変化　生徒の視点ではなく教職員の視点を　」

「実習生だけど、生徒から見ると『先生』」

「学校現場の変化」

　今年度の実習生はほとんどが卒業生でしたが、卒業生ではないがご縁があって実習を豊高で、という方もありました。卒業生が母校で教育実習を選んでくれたこと、教員免許を取ろうと豊高を選んでくれたことに感謝の思いを持ちつつ、話をさせてもらいました。

　この間、授業だけでなく担当クラスのショートホームルームで連絡を伝える様子など、熱心に誠実に実習に取り組まれていると感じました。生徒も先輩方の奮闘する様子に、何年か先の自分のことを重ねて考えたかもしれません。時には職員室前で談笑するところも見かけました。生徒からするとやはり「先生」として、どう接するか、難しいところもあったかもしれません。

　研究授業では、それぞれに工夫をされたことが伺え、あらためてこの実習期間の取組の成果を感じました。授業の説明を聞きながら、「なるほど！そうか」と納得することもあり、授業を組み立てる醍醐味、生徒から見た「分かった」という感覚を感じることができました。（しばらく授業から遠ざかっていることもありまして・・）また、本校の教員も実習指導教員だけでなく、同一教科の教員、ホームルーム担当教員等多くが指導に関わってくれました。

　実習生のみなさんが、「先生」の魅力を感じ、それぞれに学び実りある教育実習となったなら幸いです。（そうあってほしいと願っています）今後のご活躍を心からお祈りします。おつかれさまでした！